

会議録	
附属機関又は 会議体の名称	第2回 男女平等推進センター運営委員会
事務局(担当課)	男女平等推進センター
開催日時	令和6年7月22日(月) 午後3時～5時
開催場所	男女平等推進センター研修室2
出席者	委員 須藤 啓光 堀江 咲智子 山本 和子 大越 将良 高橋 あかね 原田 敏郎 濱口 恵子 松本 憲藏 男女平等推進センター所長
	事務局 4名
会議公開の可否	公開・非公開・一部公開 傍聴人 0名
非公開・一部公開 の場合はその理由	
会議次第	<p>議題</p> <p>1 事業報告および今後の予定について</p> <p>2 エポック10 フェスタ2024の開催報告について</p> <p>3 連絡事項</p> <p>(1) 「クーリングシェルター」および「としま涼みどころ」について</p> <p>(2) 第3回男女平等推進センター運営委員会日程調整</p> <p>(3) その他</p> <p>(4) 第31期運営委員の任期満了等について</p>
<p>審議経過</p> <p>委員長 令和6年度第2回男女平等推進センター運営委員会を開会する。</p> <p>事務局 本日傍聴希望者なし。</p> <p>【議題1】事業報告および今後の予定について</p> <p>事務局 資料1-1「R6年度第2回運営委員会 事業報告(庶務・計画調整G)」の説明</p> <p>—委員からの質疑および意見—</p> <p>委員長 3点補足する。1点目はプレフェスタとフェスタである。プレフェスタに関しては2日間で区内、区外から約300名が参加され活気があった。ぜひ来年も皆様にご協力いただけたら嬉しい。2点目は男女共同参画推進会議に参加した内容について共有する。議題である困難女性支援基本計画について、話に出たテーマは大きく分けて2つあると考えている。1つが、この計画での「支援」について、何を目的、目標にしていくのかということであった。何を目標数値として追っていくのかがアバウトな状況だったため、そこについて議論をした。その中で、まずはターゲットを大きく広げながら支援していく、という方向で話が出ている。今後、議論を重ねていく中で計画の内容も拡充されていくという印象であった。そして居住支援についても、具体的に何を居住支援するのか、居住支援の定義とは何かという話も出ていた。傍聴者も3名いて、注</p>	

目されているテーマであるという印象であった。会議体も委員だけでなく、行政の色々な所管の方がオンラインでも参加されていて、豊島区はこのテーマに向かってしっかりと前進していると感じた。

3点目はファミリーシップ制度のパブリックコメントについてである。委員として議論してきた中で、条例改正するというのは非常に難しいことであるという学びと気づきがあった。皆様からパブリックコメントについてポジティブなコメントをいただけるとありがたいと思う。以上、補足である。他にご質問・ご意見はあるか。

委員 パブリックコメントは具体的にどこでできるのか。

事務局 メール、郵送、窓口持参でご意見をいただく。男女平等推進センターの情報交流コーナーにもファイルがあるので、時間があればお立ち寄りいただいでご覧いただける。

委員長 パブリックコメントを出す機会は少ないと思うが、区民の声がしっかり届くので、協力をお願いしたい。

委員 次の男女共同参画推進会議の議題は決まっているのか。

所長 豊島区困難女性支援基本計画について継続して議論していく。

9月に次の基本計画の素案を出し、それに対してご意見をもらう。素案では、豊島区として困難女性に対してどんな支援をしていくのか方向性を載せる形になる。

委員長 男女共同参画推進会議も傍聴できて自分たちが当事者になりえることがたくさんあるので、時間のある方は参加していただくとご自分の生活にも反映されると思う。

所長 豊島区のホームページに5月までの推進会議の資料と議事録も載せている。

事務局 資料1-2「R6年度第2回運営委員会 事業報告(事業企画G)」の説明

—委員からの質疑および意見—

委員 良い企画がたくさんあるので参加人数を周知したいと思うが、定員が決まっていて、すぐ埋まっている印象。

委員長 定員はコロナ禍のころと比べると少し増やせているのか。

事務局 コロナ禍で減っていた人数は現在増えており、研修室2を使用しているシネマの上限は26人である。

委員長 シネマがいつも人気でお断りしているのが残念だと思う。

委員 シネマはいつも埋まっているが、実施は昼間で、どういう方の参加が多いのか。

所長 保育付きなので、子どもを預けて楽しんでいる方もいるが、全体的には年齢層は高めである。

委員 マイナーな映画でもすぐ満員になっている。

委員 常連さんはいそうな気がする。

所長 シネマ申込みの日は朝9時から電話とメールが多く入り、職員全員で対応している。

委員長 家計が苦しい家庭の方々からすると、子どもを連れてシネマが観られるというのはグッドだと思うので、難しいとは思いますが出来ることなら回数を増やしてあげたいという気持ちだ。

所長 家庭用ではなく上映できるDVDを購入しており、職員の体制も考慮する必要がある。

委員長 確かにリソースも限界があると思う。

委員	としま街なかすずらんサポーターは現状どういう形で活用されているのか。
所長	実際に連携した例では、3月8日の国際女性デーに場所やデジタルサイネージを貸してもらいPR活動をしたり、また別の企業とは、「女性の健康」をテーマに女性の生理や更年期、特有のがん等を区職員に学んでもらう機会を設けたりした。すずらんサポーターのメルマガも始まり、今後そういう事例を紹介しながら連携できるといいかなと思っている。また、薬剤師会もサポーターになってくださり、薬局にすずらんのカードとリーフレットを置いていただくなどしている。
委員	それらのことは個別に向こうから言ってきてくれるのか。
所長	向こうからの場合もあるし、こちらからお願いしたものもある。
委員長	すずらんスマイルプロジェクトはターゲットを広めにしておいて、あえて行動目標は設定せずに、救える人は救うというスタンスであるのか。
所長	すずらんスマイルプロジェクトは、10代20代の女性の「なんとなく生きづらい」を「確かな支援」につなげるプロジェクトである。ターゲットは、一人で抱え込んで重症化する前のモヤモヤしている若い方や、自分が置かれた状況を言語化できず行政に繋がろうとは全く思っていないような方。その人たちをどうにか支援に繋がらねたらと、情報発信や支援の輪を広げていく活動をしている。若年女性支援をしている民間団体等を周知して、連携を図る。
委員長	私は、困っている人たちのターゲットやボリュームを明確にして、毎年どのくらいの人たちを救おうという行動目標を設計して、そういった視点で経過を見た方がすずらんスマイルプロジェクトや困難女性支援法も定点観測しやすいと思っていた。しかし、行政の事業の目的は、数がすべてではないことがあるということ、この委員会や他の会議体でも感じるが増えている。だれ一人取り残さないとはこういうことなのだろうと改めて感じた。
所長	つなぐプロジェクトのため、行政の窓口につながることを目的ではなく、必要な支援が受けられる支援団体にしっかりとつながることが重要。すずらんスマイルプロジェクトで数値目標がどれ位というのは難しいかと思う。
委員長	事業評価はどうしているのか。
所長	予算が無かったので、事務事業評価は今までやっていないが、今は予算が付いたので、今後は例えばサポーターの数を増やしていくとかターゲティング広告でクリック数を増やすとかという形になると考えている。
委員	プロジェクトによって相談の実績は増えているのか。
所長	すずらんスマイルプロジェクトではいろいろな相談窓口や民間団体の居場所などを紹介している。よって、どこかの窓口の相談数が増えたことが、プロジェクトによるものなのかは判断が難しいところである。ただ、男女平等推進センターでやっている女性相談は以前に比べると若年層が増えている印象である。
委員	なぜ女性対象のプロジェクトだけが動き出しているのか。若い男性に対してのことも何か検討することはしないのか。
所長	コロナ渦で女性であるからこそそのいろいろな困難が浮き彫りになり、国の方でも議員立法で困難女性支援法を立ち上げた、という経緯がある。女性に特化した窓口もあるが、ほとんどの相談窓口は男性も使えるものである。若年女性支援をしていく中で男性の生きづらさに対しても気づきがあり、今年度男性相談やにじいろ相談を入れることになった。男性の生きづらさに

こちらからどうアプローチしていくかは今後の課題である。

委員 学校から、いじめや生きづらさ、貧困などで困った時はこちら、のようなプリントが今すごい頻度で届く。若い男の子たちを含めた生徒、子どもたちへのアプローチは学校経由で流しているという印象がある。限られた予算の中で当事者に一番近い接点がどこにあるのか精査する必要があると感じる。

委員長 すずらんスマイルプロジェクトのターゲットは 10 代 20 代の若い女性であり、男性は現段階では含まれていないと思う。男女平等推進センターでは女性だけでなく男性に対する取り組みもおこなっているの、見せ方をもっと意識し今後工夫していけたらいいと思う。事務局に質問だが、男性をターゲットにした支援プロジェクトは現在走っていたか。

所長 男性相談が始まったところである。また、男性向け講座も行っている。

委員長 実際に取り組みが進んでいるものもあれば、これから行われる予定のものもある。そういったものをエレベーターホール前に展示するなどして、見せ方を工夫していけたらいいと思う。

事務局 資料 1-3 「令和 6 年度第 2 回運営委員会 事業報告(相談 G)」の説明

—委員からの質疑および意見—

委員 男性相談ダイヤルはもう実施済みなのか。

事務局 7 月 9 日に第 1 回を開催した。

委員 反応はいかがであったか。

所長 残念ながらどの区も男性相談の初年度は数件程度で、だんだん名前が知れて増えてくる感じである。企業さんに相談のチラシを渡すとか周知をしていきたい。また今後学校に行く際も男性相談があることを紹介しようと思っている。

委員長 にじいろ相談は支援団体の方に相談が行きやすい。行政の活動があるという認知を届けるとい意味合いでは支援団体さんにもパンフレット等を配布すると効果が上がってくるかもしれない。ただ時間はかかると思う。

委員 実際に男性の委員の皆さんはどういう形であると相談しやすいのか。

委員 企業に配布するのはいいなと思った。企業の中にもいろいろ窓口はあるが、やはり企業の中では相談しにくいと思う。

委員長 意外とスポーツショップやジムとかに置いてくれると手に取りやすいと思う。

所長 区立のスポーツセンターとか。

委員長 ハローワークには置いて欲しい。

委員 学校もいいと思う。

所長 学校には相談窓口一覧というのがあり、そこに入れてもらう話はしているが、チラシやカードは似ているものがいっぱいあるので目立たないと言われていた。皆さんからいただいた意見を参考にして増やしていこうと思う。

委員長 学校は情報発信する場としては適切だと思うが、渡し方が大事。チラシを取っているところを見られると、いじめにつながったりもする。

所長 にじいろ相談は本人でなくても相談できる。例えば親が子どものことを聞ける形など。

委員 学校は、生徒へ LGBTQ への配慮をなさいとなっている。逆に男性向け相談ダイヤルは周知

が難しい気がする。

委員長 男の子がいじめられているときは、それ自体が恥ずかしいことと思ってしまうがちだから相談しにくい。こそっと言える場があると助かる。

所長 小学校、中学校では生徒にパソコンが配られているが、アシスとしまと繋がっていて、自分のパソコンで相談することが出来る。

委員 それはいいツールであると思う。

委員 ネット検索した時に相談が上にくるようだといいと思う。

委員長 何をするにしても結構お金がかかるので、どこまでお金をかけて出来るのかということと、お金をかけずに出来ることは何かと方向性を決めることが、今求められていると思う。

委員 やはりお金が必要になる。この時代でも物理的にリーフレットとかがあった方がいいと思う。

委員 学校の掲示板や玄関によく貼ってあるが、今の学生はネットがメインで印刷物はあまり見えないと思う。

委員長 学校で講演をして、テーマに沿って話をするが、行政のやっていることの紹介についてはあまり触れられていない。行政側と学校が手を組んで発信できるとよい。

委員 女性相談のようにカードを作ったりはしないのか。

所長 今年は、にじいろ相談と男性相談のチラシを作ろうと思っている。

委員 女性相談と同じようにカードがあるといいと思う。

所長 今後検討していく。

委員長 少しずつ課題が前に進んでいる気がする。

委員 窓口が出来たのは素晴らしいと思う。

委員長 この委員会で話していることが少しずつでも進んでいる印象である。

【議題2】エポック10フェスタ2024の開催報告について

委員長 プレフェスタの来場者数は2日間で約290名であり、豊島区に対してしっかり興味を持ってくださっている方々が集まったという印象があった。フェスタのメイン講座についても130名の定員に対して満員御礼で非常に盛り上がった。個人的にはスタンプラリーが面白く、区民の方が結構集めてくれていた。来年度も出来ると面白いと思う。共有事項は以上である。

—委員からの質疑および意見—

委員 プレフェスタは久しぶりということで大成功であると思った。

委員長 良かったと思うが課題も見えた。例えば講座内容を多くの方に知ってもらうために、プレフェスタの入り口にもう少し大きく貼ってもよかったし、休憩所のことや、そこでの飲食についても来年度は改善できるといいと思った。

委員 久しぶりのプレフェスタで以前のことを知っている職員が一人しかいないので、大変だったと思う。またプレフェスタのイベントが多くなったのには驚いた。土曜日に人数が減ったとのことだが、平日だけだと難しいと思う。また奥の方で休憩やアンケートを書くスペースが不足していたり、パネルの置き方の問題もあると思った。

委員 大正大学の学生さんからはどんな企画が発表されたのか。

所長 アンコンシャスバイアスを区民の人に知ってもらうにはどうしたらいいかというお題で、6チー

ム分の資料を掲示し、3チームがパワポを使って発表してくれた。

委員 優勝したチームはどんな企画であったのか。

所長 駅にポスターを貼るという提案である。ポスターを見てくれるのは3秒くらいの為、その駅のターゲットに合うようなポスターを3秒で見てわかるようなものを作るというものであった。

委員長 若い層が考え、みんなの前でプレゼンして行動することはすごくソーシャルグッドだと思っており、単体でなくいろんな人を巻き込んでやれるということがすごく面白い。

委員 学生さんたちは、すごくきちんと発表していた。人と言葉を使って接するという機会が減っているので、本当に素晴らしいと思う。

【議題3】連絡事項

事務局 ・「クーリングシェルター」および「としま涼みどころ」の説明

—委員からの質疑および意見—

委員 「クーリングシェルター」と「としま涼みどころ」は何が違うのか。

事務局 クーリングシェルターは指定暑熱避難施設というが、ある状況になったら必ず開設するようにと法律で決まっている。としま涼みどころはそこまですべてになっていなくても、どうぞこちらで涼んでいってくださいという趣旨で豊島区として設けている。

委員長 休める場所はすごくありがたい。

・ 第3回男女平等推進センター運営委員会日程調整

委員長 続いて次回の運営委員会の日程を決めたい。(スケジュール調整)

次回開催は10月15日(火)15時とする。

その他、連絡事項やご質問があれば挙手をお願いします。(挙手なし)

・ 第31期運営委員の任期満了等について

—任期満了及び途中退任の委員の挨拶—

委員長 以上で第2回男女平等推進センター運営委員会を終了する。

提出資料

資料1-1 R6年度第2回運営委員会 事業報告(庶務・計画調整 G)

資料1-2 R6年度第2回運営委員会 事業報告(事業企画 G)

資料1-3 R6年度第2回運営委員会 事業報告(相談 G)

資料2 R6年度「エポック10フェスタ2024」事業報告書(抜粋)